

# 地域の親子交流の場 「子どもフェスティバル」於：ゆめドームうえの

広く地域の方々に保育園を理解していただくという趣旨で「子どもたち作品展」を年に1度毎年開催している。当法人が運営する保育園、心身障がい児園に通う園児が表現した絵画や作品を展示するとともに、親子共々交流を深め、高齢者ともふれあう場を提供している。平成18年度の第21回からは名称を「子どもフェスティバル」に改め、子どもたちが主体的に遊びを体験する中で「発見・驚き・感動」を味わえるよう「遊び」を重視した内容へと転換を図り、現在に至っている。

社会福祉法人 **伊賀市社会事業協会** 〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739-2  
TEL：0595-21-5545/FAX：0595-23-6670

## ◆ 法人の概要

法人設立年：昭和23年6月  
経営施設、事業（数）：29施設  
経営施設、事業（種別）：

保育所…14施設、心身障がい児施設…1施設、  
盲養護老人ホーム…1施設、特別養護老人ホーム…1施設、老人ショートステイ…1施設、老人デイサービス…1施設、訪問介護事業所…2施設、身障療護施設…1施設、障がい者通所施設…1施設、点字図書館…1施設、学童保育施設…2施設、居宅介護支援センター…1施設、盲人ホーム…1施設、診療所…1施設

## ◆ 法人の理念・経営方針

昭和23年（1948年）、大戦後の社会情勢に対応して民間社会福祉事業を興すべく、有志の民間人相寄って、上野市社会事業協会（現：伊賀市社会事業協会）を創立した。大戦後の苦難の時代を乗り越え、新分野を開拓しつつ現在に至る。今日では、児童福祉施設、老人福祉施設、障がい者福祉施設など、29の施設を経営する社会福祉法人となった。

常に民間福祉事業体としてのダイナミズム高揚を第一義としつつ、福祉行政当局との密接な連帯のもとで、より公共的視点の求められる分野に進んで取りくんできた。民間人の集まりであるが、同族性を一切有しない。

## ◆ 実施施設の概要

施設名：14保育園と心身障がい児療育施設かしのみ園

施設種別：保育所、心身障がい児施設

活動開始年：昭和61年2月（以降第22回を平成19年11月に開催）

活動の頻度・時間：年1回、終日（毎年2,000名～3,000名来場）

活動の対象者：伊賀市全域の保育園児、幼稚園児、小学校低学年児童、その保護者たち

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

昭和61年2月、広く地域の方々に保育園を理解していただくという趣旨で開始したこの活動は、「子どもたち作品展」として年に1度毎年開催しつつ、平成19年度で第22回を数えるに至った。

当法人が運営する14保育園、1心身障がい児園に通う園児が表現した絵画や作品を展示するとともに、親子共々交流を深め、高齢者ともふれあう場を提供すべく開催してきた。また、子育て相談や食育、保健などの楽しいコーナーを設け、食べることや健康に関心を持ってもらうよう工夫している。

平成10年の第13回からは屋内型競技場「ゆめドームうえの」（床面積4,681m<sup>2</sup>）へ会場を移し、より多くの方々に参加していただけるようにした。第21回からは名称を「子どもフェスティバル」に改め、作品展示がメインというイメージから脱却し、子どもたちが主体的に遊びを体験する中で「発見・驚き・感動」を味わえるよう「遊び」を重視した内容へと転換を図った。

## 実施内容

主な実施内容として3つ紹介する。

### ①身近な素材を利用した遊びのコーナー

環境破壊が進行し、大きな社会問題となっている。そこで今回は3R（リデュース、リユース、リサイクル）という考えに着目して、テーマを「身近な素材で遊ぼうよ2007」とした。例えば牛乳パック1,000個で作った迷路や、ティッシュペーパーの空き箱を使ったドミノなど、我々の身の回りの素材を利用して、子どもと保育士が様々なアイデアを生み出し遊べるようにした。

### ②伝承遊びのコーナー

地域のお年寄り7～8人ずつ交替でご参加をいただき、独楽回しや綾取りなど昔からの遊びを教わる世代間交流の場を作った。

### ③各種相談コーナー

全国的に乳幼児の生活リズムの乱れが懸念されている。朝食を食べない、就寝時間が遅くテレビ視聴時間が長いなど気になる状況が見受けられる。そこで会場内に「子育て相談コーナー」「子どもと食事コーナー」「子どもと保健・赤ちゃんひろば」を設け様々な相談に対応した。

食事コーナーには栄養士6名を配置し、食に関する相談、あるいは簡単朝食レシピの配布を行った。「子どもと保健・赤ちゃんひろば」では、看護師2名と言語聴覚士1名を配置し、育児相談や保健相談を受けた。また、乳児向けのほふくスペースを設け、保育士も交えた親子ふれあい遊びや手作り玩具遊びを楽しんでいただいた。

## 活動効果

それぞれの活動の効果について

### ① 身近な素材を利用した遊びのコーナー

身近な素材がちょっとした工夫で様々な遊び道具に変身する様は、子どもの興味をそそり、考え工夫する力を養うことにつながる。例えばたくさんの空き箱があれば、積んでみる、並べてみる、そばに居る子と一緒に作るなど幾通りもの遊びが創造できる。さらに、既成の玩具では味わえない遊びを考え出す面白さがあり、同時に物を大切に作る心も培われる。親子で各自の生活を見直す良い機会にもなったと思う。

### ② 伝承遊びのコーナー

核家族が増加し、お年寄りとおふれあう機会が減った子ども達は、お年寄りの遊びの技に目を丸くしていた。また遊びや会話を楽しむ中で、お年寄りを敬う心や労わる気持ちを養うことが出来たと思う。

### ③ 育児等各種相談コーナー

最近の保護者は世代間の交流が希薄なため、育児のベテランに相談する機会が減りつつあり、雑誌やインターネットから溢れる情報に頼り過ぎる傾向にある。多くの保護者が子どもの成長や行動に戸惑い、どう育てたらよいのか分からずに思い悩んでいる。そのような保護者の悩みをじっくり聴いたり、解決糸口を見つけるきっかけの場を提供できたように思う。

### ④ まとめとして

今回の子どもフェスティバルの来場者は2,813人であった。これに係る全ての経費は伊賀市社会

事業協会が負担しているが、保育園を広く理解してもらうことによって当法人福祉活動に寄与するところは大きい。

## 今後の課題

来場者の過半数が当協会の運営する保育園児と保護者であると思われるので、未就園児やその他の児童にもっと参加してもらえよう工夫したいと考えている。地域の子育て支援の役割を果たす一つの活動として、より定着していければいいと思う。

近年は、福祉事務所や教育機関等の関係者も多く参観に訪れるようになった。今後、来場者へのアンケートを参考にしつつ、テーマを少しずつ変えながら一層活気あるフェスティバルにしていきたい。

